【特別支援学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津特別支援学校好学舎分校
1 前年度 評価結果の概要	○目標を達成した項目については、今後も取組を継続し維持していく。 ○生活態度の向上に関しては、分かりやすくルールを示して粘り強く進めたい。 ○キャリア教育及び職業教育については、児童生徒にも意識付けできるようにしたい。 ○児童生徒の実態を把握し、適切な指導及び支援の随時見直しを行っていく。
2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。

3 本年度の重点目標	- 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。 - 児童生徒のこれまでの成長歴、特性に配慮しながら、教職員が教育目標、教育活動について意識統一を図る。 - 分校に合う児童生徒についての指導、支援について、専門性の向上を図る。 - 児童心理治療施設「好学舎」や関係機関と連携し、支援体制の確立を図り、学校運営を円滑に遂行する。 - 業務および組織の見直しを常に行いつつ、働き方改革の推進に努める。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度(評価)		実施結果	学校関係者評価	
				達成度	評価		評価	意見や提案
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○授業への取り組みが向上した(理解度、授業を受ける態度など)と感じられる児童生徒70%以上 ○家庭学習の定着:課題に取り組み、提出する児童生徒70%以上 ○「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員70%以上	・児童生徒に合わせた学習環境や学習形態などの工夫(ICT機器の効果的な活用や、活動内容・時間の調整など個別の対応を可能な範囲で実施) ・主体的に取り組みやすい課題の提供 ・自立活動に関する専門性向上に必要な校内研究及び職員研修を設定し、効果的な指導及び評価を行う。	A	A	・「授業への取り組みが向上した」と回答する教員94%、保護者91% ・「課題を提出した」児童生徒がほとんどであった。 ・「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と全ての教員が回答した。 ・事後研修等を経て専門的な知識技能を共有できた。 ・実践に生かすことができた。	A	実施結果も教員・保護者とも概ね高評価であり、今後も継続して取り組んでいきたい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者との接し方を含めた生活態度が向上した児童生徒60%以上 ○「自分の行動を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした児童生徒60%以上	・学校生活の様々な場面で、教師が手本となる言動を示す。 ・児童生徒の思いを表出しやすくする場の設定や関わり方を行う。	B	B	・「他者との接し方を含めた生活態度が向上した」と回答した教員88%、保護者74%。「自分自身を振り返ったり、思いを適切に話せるようになったりした」教員88%、保護者79%となっている。 ・各学部教師間で指導を統一し、児童生徒にと安心感ある学校環境の場の設定ができた。 ・自己の価値観、他者との関わり等で問題が起こった時は必ず振り返る活動を行った。	B	教員と保護者での実施結果に差が生じている。取組内容のさらなる充実を努めていきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止や対応を理解し、組織的に行うことができていたと回答した教員60%以上	・いじめに関する研修を年2回以上実施 ・いじめの認知・認知の観点から、児童生徒の様子を正しく見取り、教師間の情報共有を密に行う。	A	A	・いじめの防止や対応を理解し、組織的に行うことができていたと回答した教員94% ・放課後の教職員情報共有、施設との連絡により、全児童生徒のきめ細かい把握と対応を行うことができた。	A	実施結果同様、今後も情報共有、施設との連絡による児童生徒への対応をお願いしたい。
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていて」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み。 ・個別の各種計画における本人や保護者の希望やニーズの反映 ・キャリアパスポートの活用による基礎となる能力・態度、勤労観・職業観の形成 ・中学部における進路指導の充実(職場体験、見学、高校説明会等の実施)	B	B	・各種体験活動における、見通しを立てる機会、振り返りの機会を設けることができた。 ・「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と保護者全員が回答した。 一方、教員では、「あまりできていない」という回答が半数であった。 ・見学、体験、説明会等への参加は継続して行っている。	A	数値目標、児童生徒の80%以上は、評価できる数値である。
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ○感染症予防の徹底	●「児童生徒の希望や実態等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と回答する施設職員50%以上 ○感染症予防について、児童生徒の指導に努めたと回答する職員80%以上	・歯の健康に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・感染症予防について職員に周知、児童生徒に予防の指導をする。 ・好学者と連携して児童生徒の健康状態を把握する。	A	A	・意識調査の結果、児童生徒の歯の健康に対する関心が高く、意識して歯磨きをすることができた。 ・「歯みがきカレンダー」を仕組みることで、歯磨きの習慣化を促すことができた。 ・全職員が感染症の指導や予防に努めた。 ・好学者と情報共有しながら感染症の予防、健康状態の把握に努めた。	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●時間外在校等時間を前年度より減らす。 ●年休14日以上取得をめざす。	・毎週金曜日を定時退勤に設定 ・学校閉庁日を6日間設定する ・会議内容の事前周知や資料の精選による会議回数や時間短縮 ・年休の取りやすい環境を醸成する	A	A	・時間外勤務時間の平均約13時間。前年度より3時間程度減少した。 ・学校閉庁日を6日間設定する ・効率的な会議等が実施されていると教員のほぼ全員が感じている。 ・年休取得日数平均15.5日	A	時間外勤務時間が前年度より3時間減は評価できる。年休取得も含め今後より一層の働き方改革の推進をお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度(評価)		実施結果	学校関係者評価	
				達成度	評価		評価	意見や提案
○関係機関との連携の推進	○児童相談所や関係学校、好学者との連携強化・内容の充実	○児童相談所との情報共有のケース会等の1回以上の開催 ○転出入時の引継ぎ会の開催90%	・好学者との細やかな情報交換、情報共有の実施 ・児童相談所への連携強化のための啓発(ケース会開催の依頼) ・原籍校との綿密な引継ぎ	A	A	・すべての三者会議を実施できた。 ・1回以上の合同会議の他、随時ケース会を実施した。 ・転出入時の引継ぎは、事前連絡、必要な資料を準備し100%実施できた。	A	実施結果に問題はなく、今後も関係機関との連携の推進をお願いしたい。

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	・目標を達成した項目については、今後も取組を継続し維持しつつ、さらなる深化を目指していく。 ・生活態度の向上に関しては、分かりやすくルールを示して粘り強く進めたい。 ・転入生だけでなく、在校生も適切な指導及び支援について随時見直ししたい。